

第23号

千種さわやか通信

発行者：千種さわやかクラブ
 (千種区老人クラブ連合会)
 TEL：052-753-1942
 発行人 塚原義政
 令和4年10月1日発行

千種に帰ってきました

千種区保健センター福祉部長

北本 美代子



私は岐阜県穂積町（現・瑞穂市）で生まれ育ち、ここ千種区は大学四年間下宿生活をおくった地であり、覚王山や今池、星ヶ丘などとても愛着があります。中でも東山動植物園は私の大好きなスポットです。幼少期には両親が三人姉妹の私たちを毎年二回JRと地下鉄を乗り継いで連れてきてくれ、日帰りの小旅行でうきうきでした。大学生時代には講義をさぼり友人とペンギンを三時間眺めていたり、植物園の広場で昼寝をしたり癒しの場でした。子育て中は親子五人、お弁当持ちで一日中過ごすのが恒例のイベントでした。今はもう二歳になる孫娘と出かけるのが楽しみです。



私は市役所に入庁し今年で三五年になります。これまでは食品衛生業務に携わり千種保健所に係員・主査として、そしてこの度、千種区保健福祉センター福祉部長として三回目の千種区勤務となり、ご縁を感じることもと大変嬉しく思っております。千種区には、伝統ある神社仏閣や魅力ある飲食店などがたくさんあります。千種区名所案内のスタンプラリーなどを活用しながら、区内を巡り、魅力ある街づくりなど感じ、行政に生かしてまいりたいと思っています。

新型コロナウイルス感染拡大により、ここ二年余り多くの行事等が中止となりましたが、今年度は感染防止対策を徹底できるところから動き出しています。千種さわやかクラブの会員の皆様におかれましては、さまざまな工夫を凝らし元気で楽しいクラブ活動を進めていただくことを期待しております。最後に、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

八月一五日に思う

自由が丘学区 第七白寿会

会長 宮川 烈一

また暑い夏がやってまいりました。最近、地球温暖化で年ごとに暑いと感じ、体も暑さにならされているような感じもしますが、冷房なしでは過ごせません。

令和二年頃から新型コロナウイルス感染症の関係で自粛生活を余儀なくさせられています。今は外出制限がなくなっていますが、高齢者は外出自粛といわれ、人との交流ができず、意欲も上がらず悪循環な生活に流されているように思われます。それでこの暑さ、コロナ怖いし熱中症も怖い、ますます外出が遠のきますが、何かにチャレンジしなくてはと思っています。

さて、暑い夏で忘れてはいけないうのが終戦記念日です。七七年前の八月一五日も暑かったと聞いています。そんなことを考えていたら、奈良県御所市の「葛城一言主神社」にちなんだ「はがきの名文コンクール」募集の広告を見ました。一言主大神は「一言の願いならば何事もお聞きくださる神様」として古くから全国各地からの信仰を集めています。そこで、大正三年開局し、役目を終え、朽ちていた局舎を平成二七年に郵便銘柄館として、当時の姿に復元したのを機にこのコンクールを始めました。

SNSやメールがあふれる現代において「はがきに一言の願い」を書いて応募する人がどのくらい居るのか当サイトを調べました。平成二七年の開始以来、二万五千通から多いときには四万通越えの応募があるそうです。

選考委員会は、五木寛之、直木賞作家村山由佳、明治大学教授斎藤孝の三氏で大賞一名百万円、佳作一〇名などです。今年は七月一五日募集開始、八月三十一日締め切りです。今年の二月二四日に世界中の予想に反してロシアが始めたウクライナ侵攻は、集合住宅やショッピングセンターなどへのミサイルによる非戦闘員、女性や子供を標的にした無差別攻撃など悲惨な状況が毎日放送され、平和な日本で暮らす幸せを感じる毎日です。そんな中、六日に広島で、九日には長崎で原爆被爆者の慰霊と平和記念式典が行われました。『不戦を願う原爆忌、今年は喜寿』二度と核兵器が使用されないことを願い、コンクールに応募しようと思います。

